

兵庫区計画 案

～やさしさと思いやりのまち 兵庫～



●兵庫区計画とは

○兵庫区計画は、区民のみなさんと兵庫区役所などが2025年（平成37年）を目指した区の「将来像」・「まちづくりの目標」および2015年度（平成27年度）までの区のまちづくりの重点施策テーマを共有し、協働で取り組むための計画です。

○策定にあたっては、区民のみなさんや地域団体等のご意見をお聞きしながら、兵庫区民まちづくり会議が中心となって、とりまとめを行いました。

○区の個性や特性を活かして、区民の生活に密着した分野を中心に、重点的に取り組むことをまとめています。

○全市的な視点でまとめている「神戸づくりの指針」「神戸2015ビジョン」とともに、神戸市の基本計画として相互に連携しながら、一体的に取り組むを進めていきます。

○目標年次 2015年度（平成27年度）



1. 兵庫区計画の基本的な考え方	1
2. 兵庫区の魅力と課題	2
3. 兵庫区計画の基本方針	5
4. 重点施策および重点事業	9
●重点施策テーマ：安全に安心して暮らせるまち	
重点施策 1. 安全・安心なまちづくりを進める	10
重点施策 2. 地域の防災力・防犯力を高める	12
重点施策 3. いざという時への意識を高める	14
●重点施策テーマ：育ち・育む 支えあいのまち	
重点施策 4. やさしさと思いやりのこころを育む	16
重点施策 5. 子どもの笑顔を守り育てる	18
重点施策 6. 誰もが暮らしやすいまちを育てる	22
重点施策 7. 運動・スポーツで元気・健康を育む	24
●重点施策テーマ：活力みなぎる魅力ゆたかなまち	
重点施策 8. 兵庫区を中心核の活力を高める	26
重点施策 9. 個性を活かした地域づくりを進める	28
重点施策10. 「美しいまち ひょうご」を育てる	32
5. 重点事業の進め方	34
6. 主な区民の声	36
7. ひょうごのあゆみ	38
8. 策定の経緯	39

●兵庫区の将来像

- ・兵庫区では、2010年（平成22年）を目標年次とする区別計画、そのまちづくりの指針である区中期計画に基づき、行政による各プロジェクトが具体化し、地域主体のまちづくりが活発化するなかで、いろいろな成果が現れてきています。
- ・「新・神戸市基本構想」が目標年次とする2025年（平成37年）に向けては、これまでの成果を活かして引き続き取り組んでいくことを基本的な考え方とします。
- ・兵庫区の将来像は、

「やさしさと思いやりのまち 兵庫」

とし、さらに大きく育てていきます。

●まちづくりの目標

- ・兵庫区／区別計画策定時に、将来像の実現に向けて、課題に対応したまちづくりの目標を定めました。
- ・これまでの取り組みにより成果は徐々に現れてきていますが、まちづくりの目標に向かってこれまでの取り組みをさらに継続していくことが必要と考えます。
- ・引き続き、以下の5つをまちづくりの目標とします。

①いつまでも住み続けたいくなるまちづくり

- ・誰もが住みたくくなるような魅力とやさしさのあるまちづくりの推進

②ともに長寿をよろこびあえるまちづくり

- ・高齢社会に対応した地域福祉の充実

③歴史と自然を活かしたうるおいのあるまちづくり

- ・水と緑と豊かな歴史的資源を活かしたうるおいのあるまちづくりの推進

④文化・スポーツ活動の盛んな明るいまちづくり

- ・生活にうるおいを与える文化の振興と教育環境の充実

⑤活力あふれるまちづくり

- ・商業・工業の振興による活力あふれるまちづくりの推進

●「ハートン」とは？

- ・兵庫区では、平成14年度に区民まちづくり会議により提唱された「やさしさと思いやりのまち 兵庫」を多くの区民のみなさんに知ってもらい、また親しんでもらうため、平成16年4月、公募によって誕生したシンボル・キャラクターです。
- ・デザインは、兵庫区の頭文字「ひ」とやさしさと思いやりをイメージしたハートをモチーフにしています。



●兵庫区の魅力

山林や山麓部の自然



祭などの伝統行事

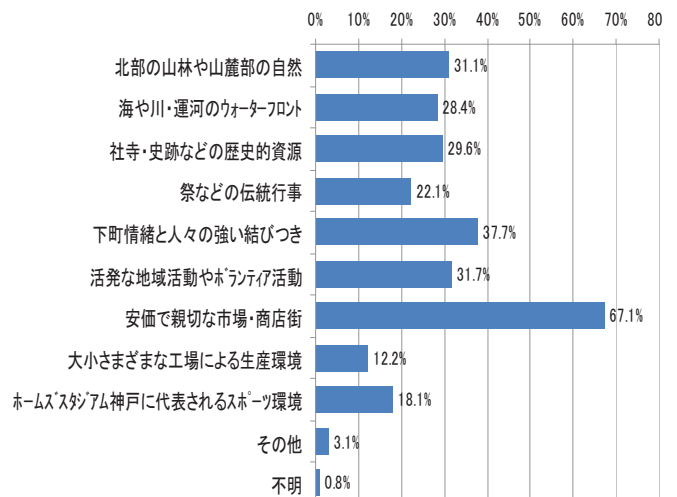


安価で親切的な市場・商店街

海や川・運河の
ウォーターフロント下町情緒と
人々の強い結びつき大小さまざまな工場
による生産環境社寺・史跡などの
歴史的資源活発な地域活動や
ボランティア活動ホームスタジアム神戸に
代表されるスポーツ環境

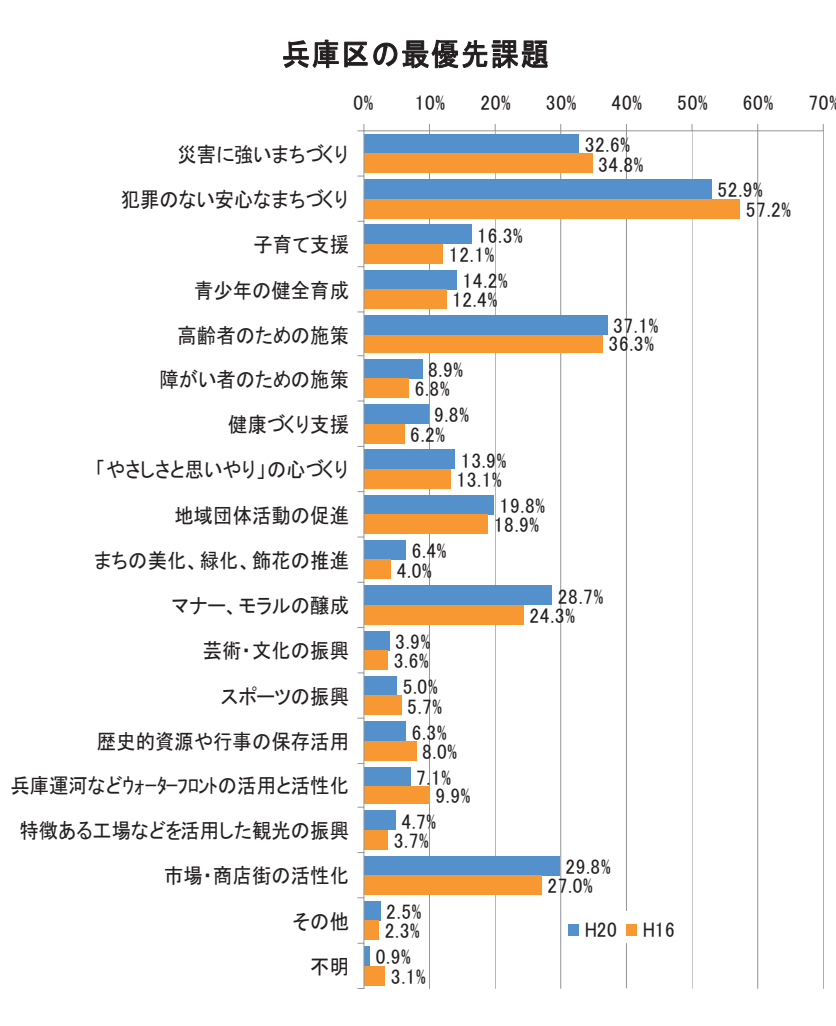
- ・平成 20 年度に行った区民アンケートでは、「市場・商店街」を魅力に挙げた方が 2/3 を占めています。次いで「下町情緒」「地域活動等」「山林や自然」と続きますが、いずれもまんべんなく回答が集まっています。
- ・兵庫区は、北部、中部、南部と、特徴や性格の異なる市街地で構成されています。北部在住の方は「山林や自然」「市場・商店街」、中部在住の方は「市場・商店街」、南部在住の方は「海や川・運河」「スポーツ環境」を魅力と回答する比率が高くなっています。

兵庫区の魅力



●兵庫区の最優先課題

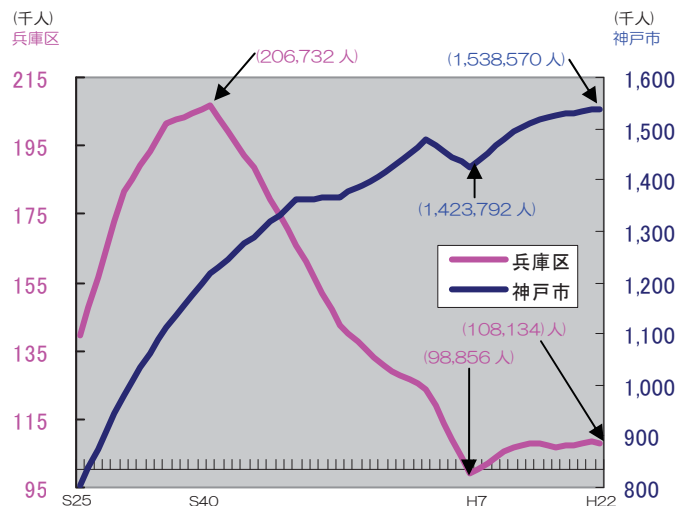
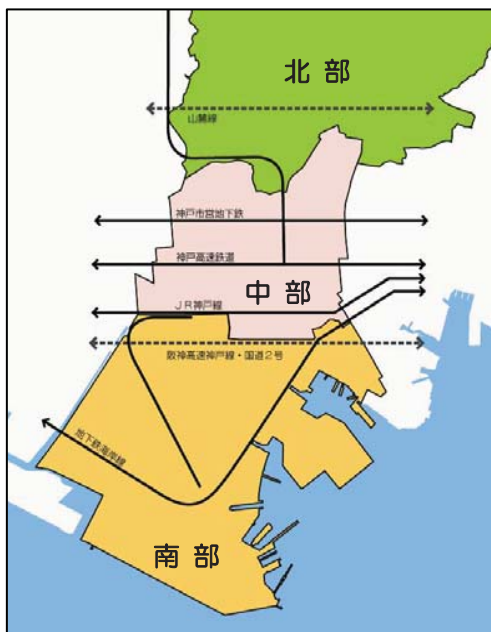
- ・平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、兵庫区の最優先課題への意見として「犯罪のない安心なまちづくり」を挙げた方が過半数を超えています。次いで「高齢者のための施策」「災害に強いまちづくり」「市場・商店街の活性化」「マナー、モラルの醸成」となっています。
- ・前回（H16）と比べると、「犯罪のない安心なまちづくり」が約 4 ポイント減少し、「マナー、モラルの醸成」のポイントが約 4 ポイント上昇しています。
- ・兵庫区計画の策定に際して、最優先課題としては、まず「安全・安心に暮らせるまち」が挙げられます。これまでの取り組みが少しずつ評価はされてきていますが、継続していくことが必要と考えます。
- ・また、「マナー、モラルの醸成」への取り組みは、「安心して暮らせる」「住み続けたいくなる」兵庫のまちにつながっていく重要な施策と考えます。
- ・兵庫区の高齢化率は市内でも高く、今後ますます少子高齢化が進むことが予想されます。このような状況の中、区民アンケート結果による最優先課題などを踏まえ、兵庫区がより魅力的で住みたくなる、住み続けたいくなるよう、区の計画を策定していきます。



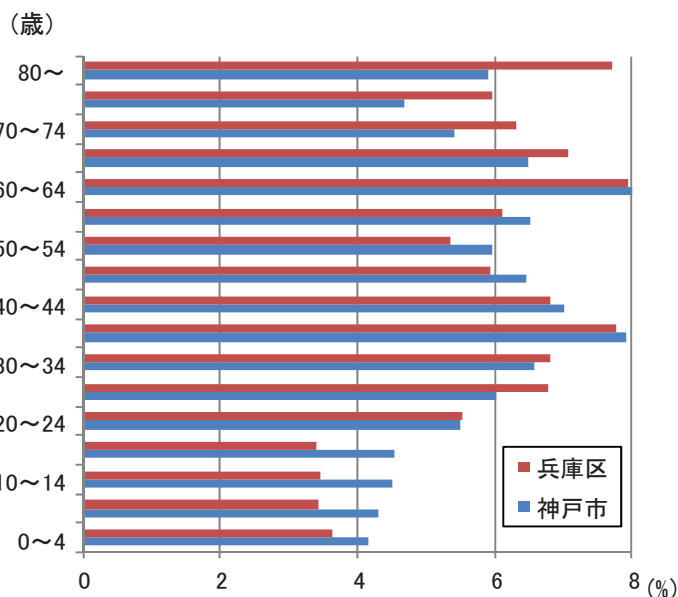
上段：平成 20 年度、下段：平成 16 年度の結果

●人口の特徴

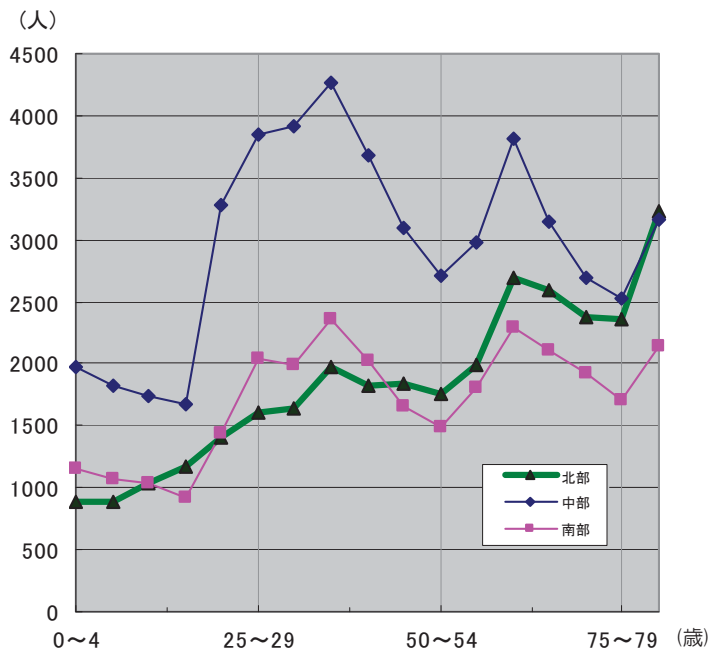
- ・社会全体で少子高齢化が進む中、古くからの市街地が多い兵庫区では、よりその傾向が顕著です。
- ・特に、北部地域では少子化の進行が早く、平成21年春に北西部4小学校の統合が行われ、北東部でも小中学校の統合が予定されています。
- ・民間住宅の供給が顕著な中部地域では、北部・南部地域に比べて地域全体の人口が多くなっていると同時に、20代、30代の人口比率が高く、子育て世代の割合が高くなっています。
- ・南部地域は、大規模な工場等が立地するため、北部・中部地域に比べて地域全体の人口が少ないですが、20代、30代の人口比率が高く、10歳未満の子ども人口が少しずつ増えています。
- ・少子高齢化への対応はもちろんのこと、こうした若年・壮年層への施策も重要と考えます。



兵庫区と神戸市の人口推移 (H22.9.1 現在)
※国勢調査結果およびその推計人口による



兵庫区と神戸市の5歳階級別人口割合 (H22.10.31 現在)
※住民基本台帳(含・外国人登録)町丁目別・5歳階級別人口による



北部・中部・南部における5歳階級別人口 (H22.10.31 現在)
※住民基本台帳(含・外国人登録)町丁目別・5歳階級別人口による

●兵庫区計画の基本方針

- ・兵庫区計画は、2025年（平成37年）を目標年次とする「新・神戸市基本構想」の実現のため、2015年度（平成27年度）を目標年次とする5年間の計画です。
- ・これまでの取り組みや成果をうまく活用し、また補いながら、より魅力的な兵庫区をめざしていきます。
- ・南北に長く、異なる特徴を持つ北部・中部・南部の地域で構成されるのが兵庫区の特徴です。それぞれの魅力を活かしつつ相互の交流や一体感を高めることで、兵庫区全体として魅力あるまちづくりの実現をめざしていきます。
- ・地域活動が盛んで人情味あふれる兵庫区民との協働と参画をより一層進めていきます。

●重点施策テーマ

- ・兵庫区の将来像およびまちづくりの目標をめざし、2015年度（平成27年度）を目標年次に重点的に取り組む施策について、3つの重点施策テーマを定め、これまでの取り組みを継続していきます。

①安全に安心して暮らせるまち

- ・「安全に安心して暮らせるまち」は、地域づくりの基本となるものです。
- ・阪神・淡路大震災では、行政の対応にも限界があり、日頃の地域における地道な活動や人と人との“絆”が大切であることを学びました。地域の絆があれば、災害時に素早く対応でき被害を少なくすることや犯罪を減らすこともできます。
- ・阪神・淡路大震災から16年、地域と協働で取り組んできた様々な活動により、まちの安全性や安心感は高まってきましたが、今後も継続して取り組むことが重要と考えます。

②育ち・育む 支えあいのまち

- ・「育ち・育む 支えあいのまち」は、やさしさと思いやりの「こころ」そのものです。
- ・子育て、青少年健全育成、高齢者などへの支援から健康に至る様々な課題は、家庭の役割を基本としながら、地域の「こころ」によって支えられます。特に、地域ぐるみで子どもや高齢者などを見守る支えあいの「こころ」は、今も昔も地域社会に期待される重要な役割の一つと考えます。

③活力みなぎる魅力ゆたかなまち

- ・「活力みなぎる魅力ゆたかなまち」は、人々が、楽しく、気軽に集い、活躍できる、元気なまちです。
- ・地域に魅力をもたらす重要な要素は、“豊かな個性”と“美しさ”です。
- ・長年、重点施策として取り組んでいる「個性を活かした地域づくり」の推進と「美しいまちづくり」の推進を、継続して取り組むことが重要と考えます。

●地域別の将来方向

- ・兵庫区は、南北に長く、地域ごとに地形やその形成過程が異なり、それぞれが多様な魅力や特徴をもっています。
- ・こうした地域の特性を踏まえて、魅力や個性を伸ばす取り組み、課題を解決する取り組みを進め、兵庫区全体が将来像へ近づくことをめざします。
- ・また、兵庫区全体の魅力を高めていくためには、これら特徴のある市街地や魅力資源の交流ネットワークを充実していくことが大切と考えます。

①北部地域

- ・北部地域では、豊かな自然や新湊川河川緑地軸を活かした散策路やオープンスペースを整備するとともに、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

<まちづくりの方向>

- ・閑静で住みよい、ふれあいのまち
- ・水と緑と歴史に恵まれたまち

②中部地域

- ・中部地域では北部からつながる東の生活文化軸を形成する湊川周辺や新開地周辺のまちづくりを進めます。

<まちづくりの方向>

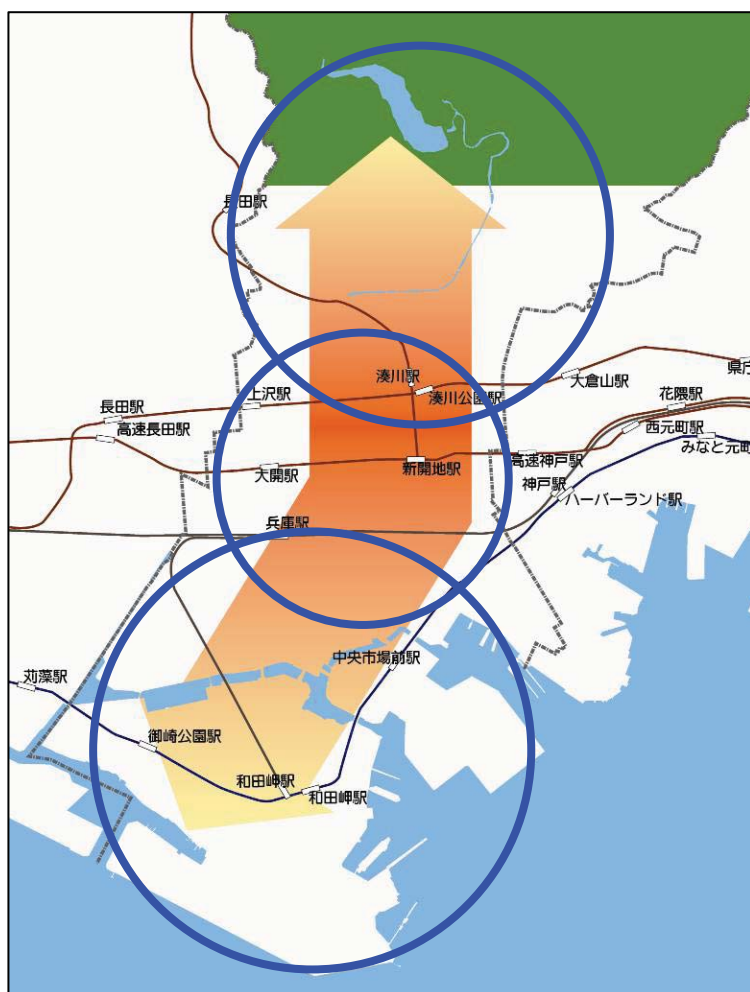
- ・区を中心としての機能をもつまち
- ・商業や文化活動の盛んなにぎわいのまち

③南部地域

- ・南部地域では兵庫運河を軸に、歴史や水辺の魅力を活かしたまちづくりや大規模な土地利用転換に対応したまちづくりを進めます。

<まちづくりの方向>

- ・産業と生活の調和するまち
- ・兵庫津の歴史とウォーターフロントに親しめるまち



●まちづくりの推進方策

①協働による区政の推進

- ・地域では自治会、婦人会をはじめ、様々な組織・団体が、それぞれの目的の実現に向けて活発に活動されています。「やさしさと思いやりのまち 兵庫」の実現は、行政だけでなく、こうした地域での活動・区民の活動が非常に大切と考えます。
- ・協働によるまちづくりをよりきめ細かく進めるために、地域支援の体制強化をめざします。
- ・「兵庫区の将来像」および「まちづくりの目標」の実現をめざし、地域と行政が協働して、重点施策テーマに取り組んでいきます。

②北部・中部・南部の交流の“わ”づくり（参照：将来構想図(P8)）

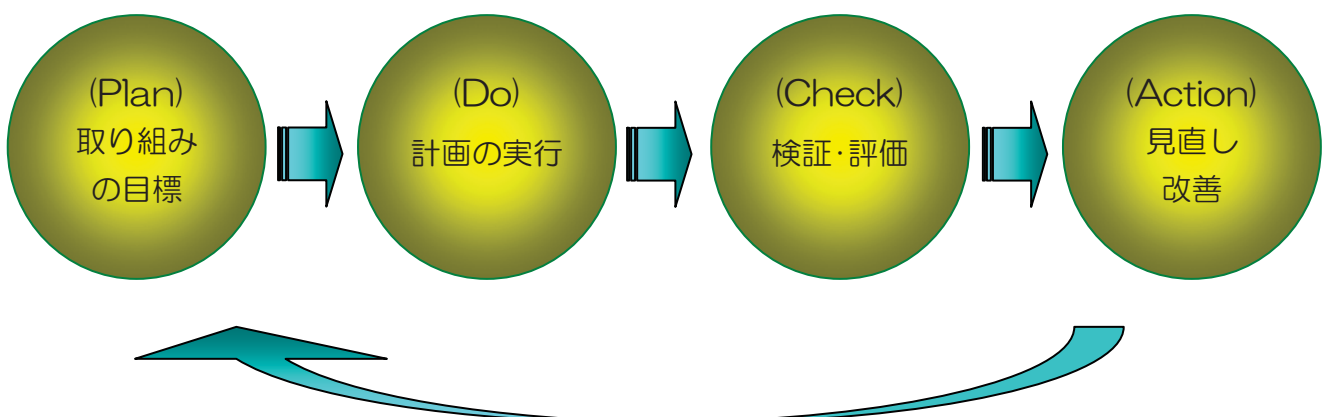
- ・南北に長く、異なる特徴を持つ北部・中部・南部の地域で構成されるのが兵庫区の特徴です。それぞれの魅力を活かしつつ相互の交流や一体感を高めることが大切です。
- ・神戸駅周辺につながる東の生活文化軸と、様々な施設や機能が集まる兵庫駅周辺を南北につなぐ西の生活文化軸を交流の“わ”で結び、区民みんなで兵庫区の魅力・活力を共有・活用します。
- ・区の南北交流の結び目であり、区の中心核である湊川公園周辺や新たな魅力ゾーンとなる中央卸売市場西側跡地等の整備を進めます。

③公的施設の再編機会を活かしたまちづくり

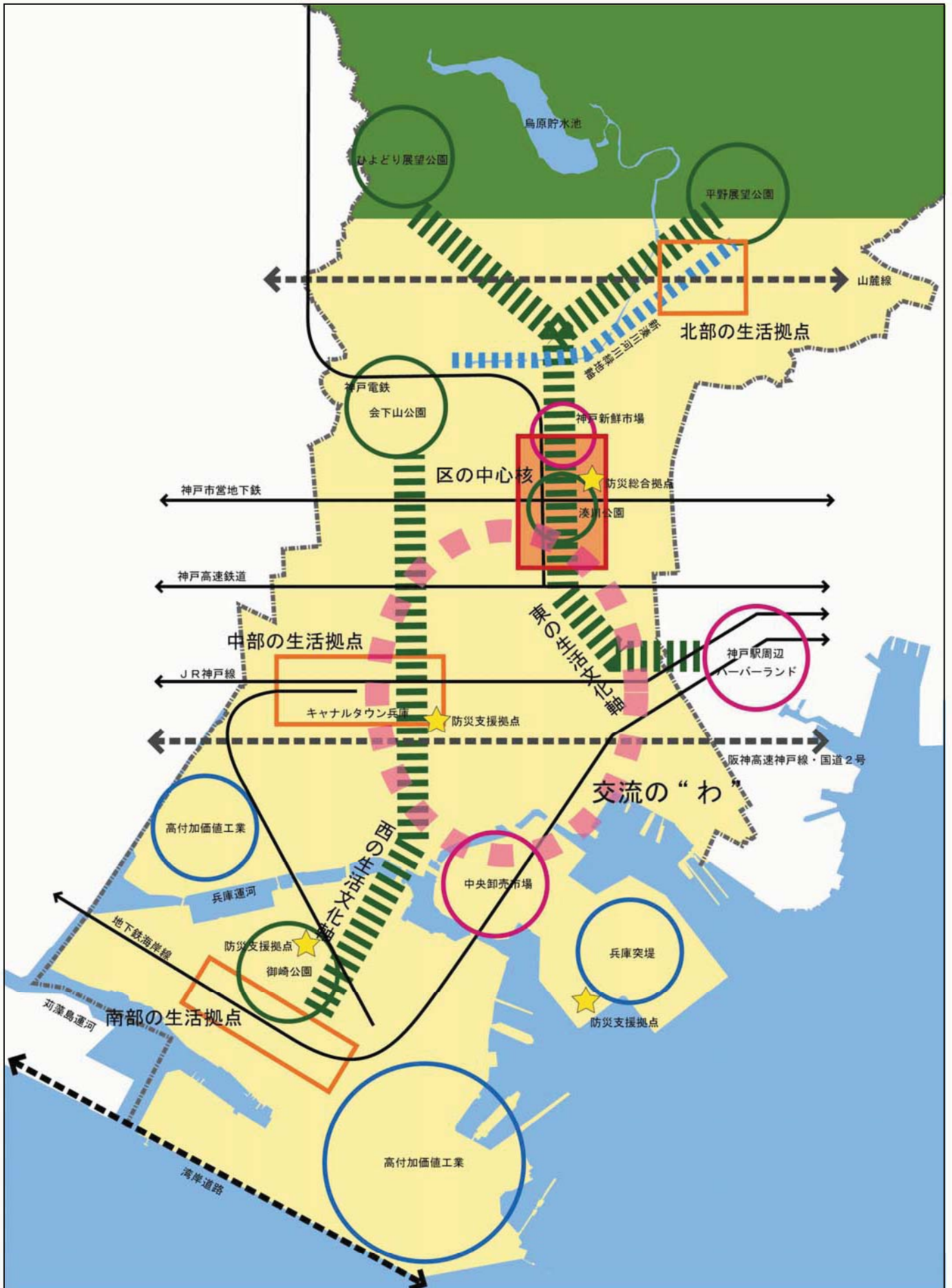
- ・少子高齢化に伴い、兵庫区内では小中学校の統廃合が進んでいます。
- ・コミュニティの拠点である小中学校の閉校は地域にとって非常に大きな影響をもたらしますが、まとまった公共用地が少ない兵庫区では、将来のまちづくりにとって貴重な財産にもなります。将来のまちづくりへ向けて、こうした公的施設の再編機会をうまく活用することが大切と考えます。

●重点施策テーマの進め方

- ・重点施策テーマの取り組みを、より着実に実のあるものにするためには、取り組みの成果を検証・評価し、必要な見直しを行い、改善に努め、次の行動に反映させることが必要です。
- ・そのために、チャレンジ指標などを使って、定期的に取り組みの進捗を確かめながら、効率的かつ効果的に計画を遂行します。



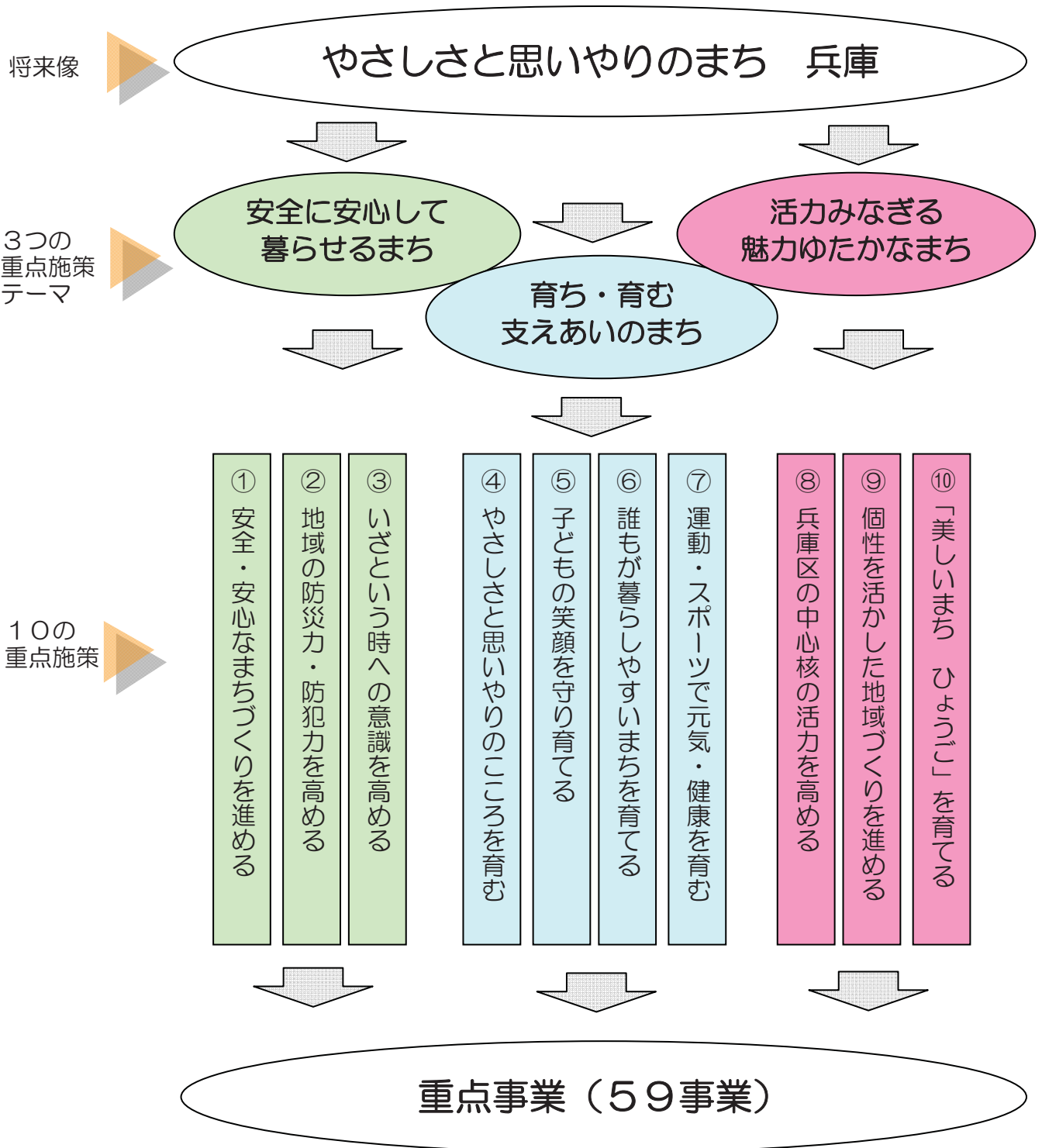
●将来構想図



4

重点施策および重点事業

- ・ 3つの重点施策テーマについて、具体的に取り組むために10の重点施策を設けます。
- ・ 10の重点施策は、さらに59の具体的な事業を重点的に進めることで、実践していきます。



●現状と課題

- ・兵庫区は、長い歴史があり古くから人が住んできた地域や明治以降、早く市街地化が進んだ地域が多いまちです。戦災復興、震災復興で道や公園が整備され、安全・安心なまちづくりが進んだ地域もありますが、古くに建てられた家屋が建て込んでいるために緊急車が通行できない狭い路地しかない地域が多く残っています。
- ・また、身近な安全・安心づくりとしては、住まいの耐震化を進めていく必要があります。
- ・平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、兵庫区の最優先課題としてもっとも多い意見は「犯罪のない安心なまちづくり」です。「災害に強いまちづくり」は3番目に多い意見です。
- ・平成 16 年度に行った区民アンケートと比べて、「犯罪のない安心なまちづくり」への意見は約4ポイント減少しましたが、「災害に強いまちづくり」は約2ポイント増加しています。
- ・引き続き、安全・安心なまちづくりへの取り組みが必要と考えます。

●重点事業

① 住宅密集地域の安全・安心づくり

- ・家屋の建て込んだ道路幅員の狭い密集市街地は、いざという時の緊急車の通行困難、家屋倒壊による道路封鎖、大雨時の排水不備による浸水など、防災上の不安が多くみられます。また、このような市街地では狭く曲がりくねった道路も多く、見通しが利かないなど、防犯上の不安もあります。
- ・このような細街路を整備するには、建物を後退し道路空間を確保する必要があります。
- ・そのため道路中心線を沿道関係者が確認し、建替え時の中心線後退をしやすい取り組みを進めます。



・建替えにより、建物が後退し道路が広がっています

② 住宅防火の推進

- ・「放火防止対策」「焼死者防止対策」を進め、火災被害者が出ない安全・安心なまちづくりを進めることが必要です。
- ・廃屋など、火災の不安要素がある家などについてのパトロールの実施、住宅用火災警報器の設置促進や防火講習会の実施、これらの取り組みに関する広報の強化などを進めます。



・住宅用火災警報器は大切な「いのち」を守ります

③ 防災情報伝達システムの確立

- ・地域、事業者などの防災情報網として「はちどりネット」が構築され、災害情報や避難勧告が有効に伝達されています。
- ・こうした「緊急情報」「防災情報」等について、携帯電話等の個人情報端末を利用して伝達するシステムの確立を進めます。

●「はちどりネット」とは？

- ・森に火事が起こった時、他の動物が逃げる中、ハチドリが「わたしのできるごとく」としてくちばしのひとしずくの水を何度も何度も運んだという南米アンデス地方の民話「ハチドリのひとしずく」に因んで、住民組織や事業所が自らできることを登録していただき、万が一の時に自発的にできる範囲の協力をしていただく事業所（防災協力事業所）等の連絡網を「はちどりネット」といいます。



④ まちかど救急ステーションの設置促進

- ・兵庫区内には 77 箇所の「まちかど救急ステーション」が設置されています。ただし、住宅地域内への設置は難しいのが現状です。
- ・急病人は、いつどこで発生するかもわかりません。住宅地域の住民にとって身近な地域福祉センターや福祉施設等に働きかけ、区内均一な分布をめざし、できるだけ多くのまちかど救急ステーションを設置する取り組みを進めます。



・まちかど救急ステーション

●チャレンジ指標（④ まちかど救急ステーションの設置促進）

☆まちかど救急ステーション設置ブロック数

基準値 25ブロック（50%） → 目標値 35ブロック（70%）

●現状と課題

- ・ 阪神・淡路大震災の教訓、東南海・南海地震への備え、ひったくりなど犯罪の増加への対応により、防災福祉コミュニティによる防災訓練や地域による登校・下校時の子どもの見守りなどの活動を、地域が主体となって実践しています。
- ・ さらに、ひとり暮らし高齢者や障がい者など、災害時の避難に困難が伴う要援護者の避難活動について取り組みを進めている地域もあります。
- ・ これまで実践・蓄積してきた取り組みや成果を継続しながら、一部の取り組みについては兵庫区全体へ広げ、地域の防災力・防犯力をより一層高めていくことが必要と考えます。

●重点事業

① 地域における安全点検の推進

- ・ 自分たちが暮らすまちにどんな特徴があり、どんな危険が潜んでいるのか、どんな防災・防犯施設が整っているのかを知ることは、安全・安心なまちづくりの第1歩です。
- ・ 事故や災害の危険箇所、犯罪等の危険箇所、いざという時の避難場所などを、学校や地域住民と一緒にまちを歩いて点検・確認したり、それを地図にまとめるなどの地域の安全を点検する活動を進めます。



・ 小学生による地域安全マップの作成

●「兵庫区での子ども見守り活動」とは？

- ・ 地域の安全・安心づくりのために、住民の方々と行政が協働で防犯活動を推進しています。
- ・ しかし、近年は子どもが事件に巻き込まれることも多いです。
- ・ 子どもたちを守っていくためには、保護者や学校だけでなく、地域の協力が不可欠です。そのような状況から、兵庫区内では防災福祉コミュニティ、防犯協会、商店街、老人クラブ、自治会、PTA、青少年育成協議会などの地域の様々な団体が主体となって子ども見守り活動を進めています。



・ 東山子ども見守り隊の活動の様子

② 防災学習の推進

- ・区による総合防災訓練だけでなく、防災福祉コミュニティによる自主的な防災訓練が各地域で活発に行われています。消防署・行政と地域との連携はもとより、地域と学校、地域と事業所とのより一層の連携が図られています。
- ・防災に対する意識を、より一層地域に広げていくために、区内全中学校において防災福祉コミュニティと連携した防災学習の実施、防災ジュニアチームの結成を進めます。



・防災ジュニアチームの防災訓練

③ 市民救命士の養成

- ・消防団との連携を強化し地域防災力を高めるために、消防団員の救急インストラクターの資格取得を重点的に進めてきた結果、7割以上の消防団員が資格を取得しました。
- ・これら救急インストラクターなどの協力を得ながら、より多くの市民の手で急病人等への対応ができるよう、市民救命士を養成する取り組みを進めます。



・消防団員によるAEDを使った市民救命士講習会
(荒田地区防災福祉コミュニティ)

④ 災害時要援護者の把握

- ・高齢者や障がい者は、災害時の避難に困難を伴います。安全に、円滑に避難するには、迅速な情報伝達や的確な安否確認が必要です。
- ・まずは、援護が必要なひとり暮らし高齢者や重度障がい者等（災害時要援護者）が、災害発生時にどのような支援を必要とするのか、地域や福祉施設等、各種団体と連携し、把握する取り組みを進めます。



・要援護者の避難支援

⑤ 要援護者避難マニュアルの作成

- ・災害時要援護者を地域が協力して避難を誘導するマニュアルの作成を進めます。
- ・地域特性に応じて、様々な災害への対応を想定する他、災害時要援護者の個々の状況に応じたきめ細かな計画を検討することが大切です。

●チャレンジ指標（② 防災学習の推進）

☆1年間あたりの中学校での防災学習の実施

基準値 1校 → 目標値 6校（全校実施）

●現状と課題

- ・阪神・淡路大震災の経験等を活かし、いざという時に備えた設備・環境は整ってきましたが、その設備・環境を有効に活用するには、区民がいざという時に備える意識を持ち続けることが必要と考えます。
- ・東南海・南海地震に限らず兵庫区の地域特性を踏まえ、様々な自然災害などに備えて、日頃より危機管理・防災意識を継続する取り組みを進めていきます。

●重点事業

① 危機管理意識の育成

- ・兵庫区南部地域の地震津波被害や北部地域における土砂災害に備え、防災福祉コミュニティとの体験訓練を実施することにより、減災の意識づけへとつなげる取り組みを進めます。
- ・安全・安心フェア（要援護者訓練を含む体験型訓練）の実施体験を活かし、地域一体となり継続的に防災訓練を行っている防災福祉コミュニティを支援し、区民との協働による良好な地域社会づくりをめざします。



・防災福祉コミュニティによる防災訓練

② 東南海・南海地震対策の実施

- ・東南海・南海地震の備えとして、津波による浸水想定地域においては、これまでに「津波浸水想定水位表示」「要援護者避難マニュアル」「地震津波防災計画」などの整備を重点的に進めてきました。
- ・これらの地域において、取り組み成果を活用し、防災訓練等の実施により津波襲来への地域の防災意識づくりをより一層深め、地震・津波への備えある安全・安心なまちづくりを進めます。



・津波浸水想定水位表示



・避難場所案内板



・防潮堤鉄扉閉鎖作業

③ 避難ガイドブックによる意識啓発（土砂災害への備え）

- ・土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域などが多く指定される兵庫区北部地域においては、土砂災害などが発生した場合の避難活動など、他地域と異なる意識や知識が必要です。
- ・避難ガイドブックによる意識啓発・広報やガイドブックに基づく避難訓練など、地域特性を踏まえた安全・安心なまちづくりの取り組みを進めます。



・兵庫区北西部の4防災福祉コミュニティ合同防災訓練

④ 救急車の適正利用推進

- ・いざという時に駆けつける救急車は、人命救助に不可欠です。しかし、緊急時以外の救急車不適正利用が少なくありません。消防署に救急車がない空白時間は、区民全体の安全に影響があります。
- ・救急車の適正利用を推進するために、救急講習会などの広報活動を通じて市民意識を育てていきます。
- ・具体的には、救急活動の実態の広報や、軽いケガなどの応急手当の普及により、緊急性のない救急要請の減少を図っていくほか、救急要請につながる日常生活上の事故（転倒、転落、やけどなど）の防止対策にも取り組んでいきます。



・救急車適正利用啓発ポスター

●チャレンジ指標（① 危機管理意識の育成）

☆安全・安心フェア開催地区数

基準値 9地区 → 目標値 17地区（区内全地区での開催）

●現状と課題

- ・兵庫区は、人情味豊かな地域特性を活かし、地域が主体となって様々な見守り・支えあいの活動が行われています。平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、兵庫区の魅力として「下町情緒と人々の強い結びつき」が2番目に多く挙げられています。
- ・その一方で、少子高齢化の進行がこうした地域の持つ力を低下させ、さらに子どもを取り巻く周辺環境の悪化も社会問題となっています。
- ・これまでの地域主体の取り組みの大切さを再確認し、兵庫区の特徴を踏まえ、改めてその基本となる「ところ」を育てていく取り組みを進めていくことが必要と考えます。

●重点事業

① 「やさしさと思いやりのまち 兵庫」の普及・啓発

- ・「やさしさと思いやりのまち 兵庫」に込められた趣旨を広く区民に知ってもらうために、シンボル・キャラクター「ハートン」を活用した、普及・啓発活動を進めます。



・ふれあいグラウンドゴルフでのハートン

② 老人クラブと保育所等との世代間交流

- ・老人クラブの各地域での活動を通じ、高齢者が保育所等の子どもたちと“ふれあう”ことで、いきがいを見出し、子どもたちも“ふれあい”の中で、お年寄りを大切にする心を育み、互いによろこびを見出すことができる世代間交流を進めます。



・老人クラブと保育所の交流

③ 大人と子どもの世代間交流

- ・ふれあいのまちづくり協議会等の行事において、親子料理教室などを行い、大人が地域で子どもを見守る意識、子どもが地域活動を支える人たちへの感謝のところを育む世代間交流を進めます。



・親子料理教室の様子

④ 障がい者交流活動の推進

- ・障がいの種別によらず、障がい者が気楽につどい、お互いの交流・理解を促進する場として「ハートン・サロン」を継続するとともに、障がい者の社会参加を促進する取り組みを進めます。
- ・さらには、障がい者に限らず、誰もが「やさしさと思いやり」をもってつどい、お互いの交流・理解を促進する場をめざしていきます。



・ハートン・サロンでの交流

⑤ ふれあい福祉講座の充実

- ・障がい者団体により、小学校等へ障がい者自身を講師として派遣し、障がい者への理解を深め、やさしく心豊かな子どもに育つことをめざすふれあい福祉講座の取り組みを進めます。

⑥ 幅広い層へのボランティア活動の普及

- ・区民が気軽にボランティア活動を始められるよう、ボランティア入門講座の開催やホームページ等による情報発信を継続するとともに、様々な機会を通じてボランティア活動の魅力を伝え、幅広い年齢層の新規活動者を掘り起こす取り組みを進めます。
- ・また、情報を提供することで、ボランティア活動者とボランティアを求める人とを結びつけていきます。

⑦ 「ふれあいの市民サービス向上運動」の推進

- ・区役所における市民サービスの向上をめざし、「意識の向上」「応対技術の向上」「業務知識の向上・業務改善活動の推進」を進め、「やさしさと思いやり」の市民対応に取り組んでいきます。



・ふれあい福祉講座での体験



・ボランティアセンターによるイベント



・ふれあいの市民サービス向上運動

●チャレンジ指標（③ 大人と子どもの世代間交流）

☆大人と子どもの世代間交流事業を行うふれあいのまちづくり協議会数

基準値 12 協議会 → 目標値 16 協議会（区内全協議会での開催）

●現状と課題

- ・都市化・核家族化が進み、さらには少子高齢化が進むことで、同年代の親子がつどえる場と機会が減少しています。加えて、育児不安やストレスから児童虐待も増加傾向にあります。
- ・近年は、インターネットや携帯電話の普及などに伴う様々な犯罪や事件も増え、子どもの安全や健全な成長を阻害する要素も増えています。
- ・子どもたちが明るい笑顔でありつづけることが、兵庫区全体の未来を創っていきます。兵庫区の子どもが、地域の中で安全に健やかに育つ環境づくりを、地域の方々と行政が協働で支えています。

●重点事業

① 子育てサークル活動の推進

- ・子育てサポーターを配置し、子育てサークルの立ち上げと活動を支援します。
- ・サークル間の交流と情報交換の場として、交流会や連絡会を実施します。
- ・さらに、子育て情報の発信により、サークル活動を支援します。



・子育てサークル

② 子育てサロンの開設

- ・子どもが健やかに育つ環境づくりと異世代間交流をめざし、地域における子育てサロンの開設を支援します。
- ・また、開設サロンが集う交流会や研修会の実施など、より活発な活動につながる取り組みも進めます。



・子育てサロン

③ カウンセリング事業の拡大

- ・ 育児不安や精神的に不安定な保護者から心理相談員が相談を受ける「個別カウンセリング」は予約待ちの状況となっているため、カウンセリング実施回数の拡大を進めます。

④ 親育ち応援事業

- ・ 家庭や地域の子育て機能が低下する中で、基本的な親のあり方を学び、子育てを楽しめるように親育ちを応援する取り組みを進めます。
- ・ 「親育ち」応援プログラムを実施するとともに、修了者が地域で活動できるようサークル立ち上げも支援していきます。



・「親育ち」応援プログラム

⑤ 「命の感動体験学習」の推進

- ・ 思春期に入る手前の小学校高学年生を対象に、乳幼児とふれあい、母親から子育ての話を聴く交流会を実施し、命の大切さやいつくしむ気持ちを育み、人を思いやる「こころ」づくりを進めます。



・ふれあい交流会

⑥ 子ども会活動の活性化

- ・ 少子化に伴い、地域で数多くあった子ども会活動が少なくなっています。地域の中で子どもが健全に育つ環境づくりの一つとして、子ども会活動の活性化を進めます。

⑦ 青年リーダーの養成

- ・地域活動において、若いボランティアは少なく、将来地域を担う人材の育成が進まない状況です。青少年が地域行事に関わる機会を増やし、将来のリーダーにつながるきっかけづくりを進めます。



・青年リーダーの養成（スマイルフェスタ）

⑧ 青少年を守る店・家（こども110番）制度の周知及び促進

- ・子どもたちが危険にさらされ、助けを求めてきた場合の緊急避難場所として「青少年を守る店・家」制度を地域の方々の協力を得て実施しています。
- ・子ども・地域の方々へ制度の周知を図り、青少年を守る店・家の登録および“地域ぐるみ”で子どもを見守る体制の充実を進めます。



・青少年を守る店・家のマーク

⑨ 青少年育成協議会の支部行事等の充実

- ・“地域ぐるみ”での青少年の健全育成を図るため、ユースステーション兵庫が持つ青少年に関する知識や経験とその人材力を活用しながら、青少年育成協議会の支部行事等のより一層の充実を進めます。



・青少年育成協議会によるグラウンドゴルフ

● 「ユースステーション兵庫」とは？

- ・中高生を中心とする子ども・青少年が気軽に立ち寄れる居場所として平成21年7月20日に湊川プラザの2階に誕生したコミュニティ・スペースです。
- ・運営・管理は、青少年活動の企画や指導について豊富なノウハウを持つ特定非営利活動法人(NPO)が行っています。
- ・利用は、ゲームや休憩、自習など様々です。
- ・その他、中高生スタッフが中心となって企画・運営するイベントも行われています。
- ・また、中高生に限らず大人の方も休憩や待ち合わせ場所として気軽に利用されています。
- ・みなさん、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



場所：荒田町 2-18-20 湊川プラザ 202号
(2階南側)
電話：078-381-5584

⑩ 青少年健全育成にかかる有害環境への対応の推進

- ・青少年健全育成の観点から、有害な看板やビラ、店舗等の有害環境の監視や環境浄化活動（パトロール、ビラはがし等）を実施しています。
- ・インターネットや携帯電話による「出会い系サイト」など有害な情報にふれる機会を未然に防ぐように、セミナーなどを通じて保護者や大人の情報活用能力の育成を進めます。



・セミナーの様子

⑪ 「思春期ヘルスケア事業」の推進

- ・中学生を対象に、性感染症についての正しい知識の普及・啓発のため、助産師・医師など専門職が出向く授業（デリバリー授業）を、区内中学校で必須授業として継続して実施します。

● チャレンジ指標（⑤「命の感動体験学習」の推進）

☆ 「命の感動体験学習」実施小学校数

基準値 1校 → 目標値 5校

● 新しく誕生した「夢野の丘小学校」

- ・平成21年4月に旧菊水・鶴越・夢野・東山小学校が統合され、「夢野の丘小学校」が誕生しました。
- ・今回の統合では、新しい学校のあり方だけでなく、4つの小学校の統合で長くなる通学路を安全なものとすることや廃止になる学校跡地をどのように活用すればよいかなど地域、学校、行政の関係者が兵庫区北西部まちづくり協議会の場で話し合いを行ってきました。
- ・新しく完成する校舎は、北西部地域の子どもの学び舎としてだけでなく、地域住民の交流の場、緊急時の避難場所など地域のコミュニティの核としての活用が期待されています。

夢野の丘小学校（新校舎）
平成22年12月完成

●現状と課題

- ・兵庫区の65歳以上の高齢者の占める割合は現在（平成22年10月末）27%を超え、今後もさらに高くなることが予想されています。社会全体の少子高齢化が進む中、高齢者が暮らしやすいまちづくりを進めることが必要と考えます。
- ・また、障がい者の社会参加機会が増加する中で、より一層、暮らしやすく活動しやすい地域づくりが必要と考えます。
- ・年齢、性別、文化、身体状況など人々がもつ様々な違いを超えてすべての人が持てる力を発揮し支えあうユニバーサルデザインのまちづくりを実現するために、区民・行政・事業者および地域間の連携を強め、きめ細かな取り組みを進めます。

●重点事業

① 誰もが安全・安心に歩けるみちづくり

- ・駅周辺など利用者の多い歩道では、これまで段差の解消に重点的に取り組んできました。
- ・今後は地域の方々の生活に密着した歩道の波打ち解消に取り組み、誰もが安全・安心に歩けるみちづくりを進めます。
- ・また、地域の方々の要望やご意見を伺いながら、例えば通学路の安全対策のように、その地域の特性に応じた道づくりをきめ細かく進めます。



・市民と行政による通学路の点検

② 誰にもやさしい施設づくりの推進

- ・利用者の立場で、区役所総合庁舎内の動線や空調、案内表示板や点字表示などの改善を図り、誰にもやさしい施設づくりを進めます。



・車いすに配慮した受付カウンター

③ 兵庫区地域ケアネットワークの充実

- ・介護にかかる保健・医療・福祉に携わる関係団体、関係事業者の連携（兵庫区地域ケアネットワーク）の充実を図るとともに、要支援・要介護高齢者の方も地域で生活できる支援体制の確立を進めます。

④ 高齢者見守り活動の推進

- ・ひとり暮らし高齢者等が地域で安心して生活が続けられるよう、友愛訪問やふれあい給食サービスを推進するとともに、地域で実施する事業や行事等への参加を通して、地域での見守り活動を積極的に進めます。
- ・また、民生委員をはじめ地域見守り活動に関わる方々との一層の連携を図ります。



・ふれあい給食

⑤ 高齢者虐待防止ネットワークの構築

- ・高齢者虐待は様々な要因と関係していることが多く、区役所の対応のみでは解決が困難なケースが多くみられます。高齢者虐待防止と早期発見・対応を図るため、高齢者虐待を正しく認識し適切な対応ができるように、地域で高齢者と関わる諸団体等への啓発およびネットワークの構築を進めます。
- ・また、関係機関との連携や区民全体への啓発を進めます。

⑥ 障がい者への地域支援の充実

- ・障がい者が住みなれた地域で安心して生活できるよう、兵庫区地域自立支援協議会においては、関係機関・団体と協力しながら、防災訓練への参加やふれあい福祉講座などを通じて地域との連携を強めます。

● チャレンジ指標（⑤ 高齢者虐待防止ネットワークの構築）

☆ 高齢者虐待防止研修会への関係者参加者数

基準値 0人 → 目標値 2,000人（累計）

●現状と課題

- ・兵庫区には、市内でも有数の大規模な公園やスポーツ施設が立地しています。また、北部には森林、南部には運河があり、気軽に体を動かしたり、スポーツに取り組んだり、自然とふれあう機会があります。これらを活用して、区民運動会や各種スポーツイベント、区民ハイキングなどが年間を通じて多数開催されています。
- ・各地域の中には、全ての小学校を拠点に「神戸総合型地域スポーツクラブ」が運営されスポーツ・文化活動を気軽に親しめる環境も整い、多くの区民に活用されています。
- ・一方、生活様式の変化に伴い、食生活の欧米化や飽食化、交通手段の発達等による運動不足などにより、生活習慣病が増加しています。区内の資源や施設を活用し、運動やスポーツに親しむ機会を増やすとともに、日常から健康に心がけ、生活習慣病や高齢化に伴う疾病を予防し区民の健康づくりを進めることが大切です。

●重点事業

① 区民スポーツの振興

- ・区民の健康づくりのために、兵庫区体育協会および神戸市体育指導委員兵庫区連絡会の協力を得て、各種スポーツ行事の実施を進めます。
- ・また、運動会やハイキング等への区民の参加をより一層活発にするために、地域住民主体での企画・実施を進めます。



・区民運動会での体操（湊川公園）



・区民ハイキング



・兵庫区ロードレース大会（御崎公園）

② 市民の健康づくりの支援

- ・地域で活動している様々な自主健康づくりグループに対して、健康づくりに関する情報提供等を行い、活動の継続・活性化を進めます。
- ・また、健康づくり推進のリーダーとなる「健康こうべ21市民推進員」のPRおよび活動の場を地域に広げ、市民推進員の充実を図ります。
- ・このような地域活動により、疾病の早期発見、早期治療にとどまらず、積極的に健康を増進する1次予防に重点をおいた健康づくりを進め、メタボリックシンドローム予防のための保健指導やがん検診の受診率向上等に努めます。
- ・“こころの健康づくり”についても様々な機会を通じて啓発に努めます。

●「神戸総合型地域スポーツクラブ」とは？

「神戸総合型地域スポーツクラブ」は、アスリートタウンの中核的な事業の一つとして、身近な小学校を拠点に、子供から高齢者まで幅広い市民が、気軽に様々なスポーツや文化活動に親しめる地域スポーツクラブです。

同クラブは兵庫区内の全ての小学校区に立ち上げられ、活動を行っています。

野球・サッカー・バレーボール・卓球などのスポーツ活動や書道・着付け・三味線・生け花などの文化活動が行われています。

興味がある方は、下記一覧のお近くの小学校に一度おたずねください。

【兵庫区内神戸総合型地域スポーツクラブ一覧】（平成23年1月末現在）

スポーツクラブ名称	拠点小学校		
	名称	住所	電話
兵庫大開さわやかスポーツクラブ	兵庫大開	大開通 4-1-39	575-4773
和田岬はちのすクラブ	和田岬	和田宮通 6-1-18	671-1105
会下山Wa i Wa iクラブ	会下山	上沢通 1-3-26	577-1501
夢野の丘スポーツクラブ	夢野の丘	東山町 4-20	521-7340
荒田スポーツクラブ	荒田	荒田町 4-17-1	511-3378
平野るんるんクラブ	平野	下三条町 10-46	521-3801
スポーツ倶楽部めいしん	明親	須佐野通 4-1-19	651-2855
浜山Can成る倶楽部	浜山	材木町 4-2	651-3890
水木スポーツクラブ	水木	水木通 9-1-8	575-8360
湊山ドリームスポーツクラブ	湊山	雪御所町 2-1	521-3881

●チャレンジ指標（① 区民スポーツの振興）

☆さまざまな区民スポーツ行事への参加者数

基準値 3,670人 → 目標値 4,800人

●現状と課題

- ・兵庫区を中心とする湊川公園および区役所周辺は、様々な目的で多くの区民が訪れる場所です。
- ・一方、平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、中部地域にお住まいの方は「市場・商店街の活性化」を最優先課題として挙げる方が多く、活性化が求められています。
- ・南北に長い兵庫区にとって、区民全体が活発に交流するには、区の方がより魅力的で活気があふれていることが必要と考えます。

●重点事業

① 湊川地域の活性化

- ・兵庫区を中心とする湊川地域は、兵庫区民みんなにとって大切なところです。区民との協働で「湊川地域の将来像」をともに描き、課題となっている区総合庁舎のあり方等を検討し、魅力と活力のある湊川地域をめざすことが必要です。
- ・南北地域をつなぐ核として、湊川地域の整備・機能強化を図り、湊川地域の活性化をめざす取り組みを進めます。



・現在の兵庫区役所

② 新開地周辺地区のまちづくり

- ・三宮などの都心地域とは異なる個性を持つ新開地周辺地区は、地域特性を活かして様々な取り組みを地域主体で続けています。
- ・「B面の神戸」というコンセプトのもと、新開地周辺地区の魅力を様々な機会に発信することで、地域全体の活性化を進めます。



・新開地のビッグマン

③ 湊川公園を活用したにぎわいの創出

- ・ 湊川公園は、兵庫区の中心的シンボルゾーンです。「はっぴいひろば（神戸まつり）」の会場になったり、日常も多くの方が利用されています。
- ・ 兵庫区の中核施設として、また南北交流の拠点として、ハード・ソフト両面から、湊川公園を活用する取り組みを重点的に進め、まちなぎわいを創出します。



・ 湊川公園でのイベント（はっぴいひろば）

④ 市場・商店街の新たな展開

- ・ 市民の台所である「神戸新鮮市場」は古くから多くの人に親しまれてきましたが、近年のライフスタイルの多様化や商業施設の大型化等により商業環境は厳しくなっています。
- ・ 人と人のふれあいの中で商う市場や商店街の良さを多くの市民に知ってもらい足を運んでもらうためのイベント等を応援することで、「神戸新鮮市場」の賑わいの持続を図ります。

● チャレンジ指標（① 湊川地域の活性化）

☆区民とともに進める「湊川周辺地域のまちづくり検討会議」の開催数
基準値 0回 → 目標値 30回（累計）

●現状と課題

- ・兵庫区は、北部、中部、南部と、特徴の異なる市街地で構成されています。平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、兵庫区の魅力について北部在住の方は「山林や自然」「市場・商店街」、中部在住の方は「市場・商店街」、南部在住の方は「海や川・運河」「スポーツ環境」を挙げる方が多くなっています。
- ・北部、中部、南部それぞれの個性を活かし、各地域の魅力と活気があふれるまちづくりを進めることが必要と考えます。そして、兵庫区の“わ”づくりで兵庫区全体を結び、南北交流を進め、「兵庫区歴史花回道構想」の一層の推進などにより、兵庫区全体を元気に、魅力的にすることが大切と考えます。

●重点事業

① 南北交流の充実

- ・南北に長い兵庫区の魅力や活力を、兵庫区全体で利用・交流できるように、兵庫の“わ”づくりを進めます。
- ・人が集まりやすく、人が利用しやすい区民ホールの設置を検討します。南北の地域団体が交流するイベント、区内各地のイベント情報の提供の充実、市バスルートなどの交通環境や歩行環境の改善など、ソフト・ハード両面から取り組みを展開していきます。

② 地域ゆかりの歴史の保存・活用

- ・地域が主体となって実施している地域に根ざした様々な伝統行事や地域ゆかりの歴史の保存・継承と、それを活かす取り組みを進めます。

③ 身近な自然の保全・活用

- ・四季ごとに違った魅力をもつ北部地域の山林・烏原貯水池・新湊川、中部地域にある公園・湊川隧道、南部地域の新川・兵庫運河などの水辺といった身近な自然を守り、活かす取り組みを進めます。



・湊川隧道でのコンサート



・兵庫運河でのレガッタ

④ 下町情緒と大衆芸能の保存・活用

- ・兵庫区の特徴の一つである“下町情緒と大衆芸能”を活かし、特徴あるまちづくりを進めます。



・兵庫区民寄席

⑤ 地域資源の連携促進

- ・「ひょうご観光ボランティア」によるおもてなしや適切な案内板の設置などにより、北部、中部、南部の歴史・自然・文化資源などをつなげ、兵庫区全体の魅力を高めま



・ひょうご観光ボランティアによる案内

⑥ まちの「魅力」の発信

- ・兵庫区の個性的な資源や魅力について情報発信し、広く深く兵庫区を知ってもらうとともに、新たに魅力を発見、発信する取り組みを進めます。



・兵庫区歴史花回道ウォーク

● 「兵庫区歴史花回道構想」とは？

- ・兵庫区の魅力は歴史だけではありません。従来は、兵庫区の豊かな歴史にふれる散策などに注目が集まっていましたが、自然や文化といった兵庫区の様々な魅力をつないでいくことで、様々な人や場所との出会いが生まれ、兵庫区の魅力がより深く豊かになっていきます。
- ・兵庫区では、「兵庫区歴史花回道構想」と題し、それぞれの資源の魅力アップはもちろん、情報発信や案内板等の設置などの仕掛け・仕組みづくりを図り、資源や魅力の種類にとらわれず、様々な魅力をつないでいく取り組みを進めています。

● 日本の都が「兵庫区」にあった？

- ・兵庫区の北部地域には、1180年6月3日から約半年の間ではありましたが、平清盛が京都から遷した都（福原京）が存在しました。周辺には都の存在を示す遺跡なども発見されています。
- ・兵庫区の南部地域には、平清盛が拓いた中国（宋）との交易の拠点である大輪田泊と呼ばれる港がありました。大輪田泊の存在により周辺は古くから街が開け、現在の神戸港の基礎がつけられました。
- ・このように兵庫区内には、平安末期の日本史に特筆されるべきできごとに関連する史跡が多く残ります。
- ・平野地域では、毎年6月に「福原遷都まつり」が開催されるなど清盛とゆかりの深い兵庫区ならではの地域イベントなどもあります。このような中、2012年1月からの大河ドラマが「平清盛」と決定しました。地域では、この放送を「由緒ある兵庫区の歴史」を全国に向けて発信していくよい機会と考え、様々な地域活動に活かしていこうとしています。

⑦ ホームスタジアム神戸の活用促進

- ・ホームスタジアム神戸における足形プロジェクトなど関連イベントに重点的に取り組み、周辺地域のにぎわいと活性化を図ります。

⑧ 兵庫運河の新たな活用

- ・兵庫運河を核にした魅力ある地域づくりをめざし、新川・兵庫運河が区民の憩いの場となるよう「兵庫運河活性化会議」での検討を通して、兵庫運河の適正な保全と活用を進めます。

⑨ 中央卸売市場周辺のまちづくり

- ・中央卸売市場跡地をにぎわいのある空間として再整備するとともに、神戸市民の生鮮食料品流通の拠点としての役割と機能を広く発信し、兵庫区の新しい魅力スポットとして、にぎわいのある空間づくりを進めます。



・スタジアム前の足形プロジェクト



・昼の兵庫運河



・中央卸売市場



・夜の兵庫運河

⑩ 産業観光の促進

- ・優れた技術を有する国内有数の企業が立地する兵庫区の特徴を活かし、関係機関と連携しながら、産業観光を促進する取り組みを進めます。



・浮ドックでの造船の様子（西出町）



・高い技術を持つ铸造現場見学

⑪ 地域の中核となる公園の活用推進

- ・湊川公園、会下山公園、御崎公園は、兵庫区において地域の中核となる公園です。これらの公園を地域イベント等で活用するなど、より一層、地域の魅力・資源として活かす取り組みを進めます。



・湊川公園（新開地音楽祭）



・御崎公園（子どものイベント）



・会下山公園（プレーパーク）

●チャレンジ指標（① 南北交流の充実）

☆南北地域団体の人的な交流機会

基準値 0回 → 目標値 25回（累計）

●現状と課題

- ・区民が兵庫区を愛し、兵庫区を訪れる人が兵庫区に魅力を感じるには、地域の様々な魅力や資源を活かすだけでなく、何気ない街角や景色が美しく豊かな表情をもつことが大切と考えます。
- ・平成 20 年度に行った区民アンケートにおいて、兵庫区の最重要課題として約 3 割の方が「マナー、モラルの醸成」を挙げており、平成 16 年度のアンケートに比べて約 4 ポイント、設問中最も大きく増えています。
- ・身近な公園などの美緑花や街角のクリーン作戦などの活動の充実とあわせて、マナーやモラルの啓発を進め、兵庫区全体を美しく魅力あふれるまちにしていくことが大切と考えます。

●重点事業

① 「兵庫区民まちかどクリーン作戦」の推進

- ・「身近なところから美しく」を合い言葉に実施している、誰でも気軽に参加できる「兵庫区民まちかどクリーン作戦」に、より一層の参加の促進を図ります。



・兵庫区民まちかどクリーン作戦

② 「美しいまち“兵庫”キャンペーン」の推進

- ・「自分たちの街は自分たちの手で美しく」を合い言葉に実施している地域における清掃活動や啓発キャンペーンに、より多くの幅広い区民の参加を呼びかけます。



・美しいまち“兵庫”キャンペーン

③ 身近な公園でのボランティア活動の推進

- ・幅広い区民が参加できる活気のある公園管理活動をめざします。美緑花ボランティア制度を柔軟に活用するなど、地域の実情にあわせた公園の管理活動が継続できるよう協働の取り組みを推進します。

④ ごみの減量・資源化の推進

- ・適正処理の確保や美しいまちづくりを進めるため、「ワケトンサポーター」や「ふれあいごみスクール」などの啓発運動を進め、ごみのさらなる減量・資源化を推進します。



・ワケトンサポーターによるごみ出しチェック

⑤ 環境への負荷の小さい地域づくりの推進（KEMSの推進）

- ・環境マネジメントシステムの幅広い事業者等における普及推進に努めるとともに、ごみの減量・資源化など地球環境問題全般について、区民への意識啓発を図ります。

● 「KEMS」とは？

- ・「KEMS」とは「神戸環境マネジメントシステム」の略称です。
- ・「神戸環境マネジメントシステム」とは、企業活動による環境へのマイナス（廃棄物、エネルギーなど）を減らし、環境に負荷をかけないようにするための活動システムです。
- ・活動システムの概要は、企業が
 - ①「環境配慮への取り組み方針」を明確にし、
 - ②「具体化に向けた計画を立て」、
 - ③「計画を実施」し、
 - ④「実施した成果を点検・評価」し、不備があれば「改善し再び取り組みを進める」ものです。



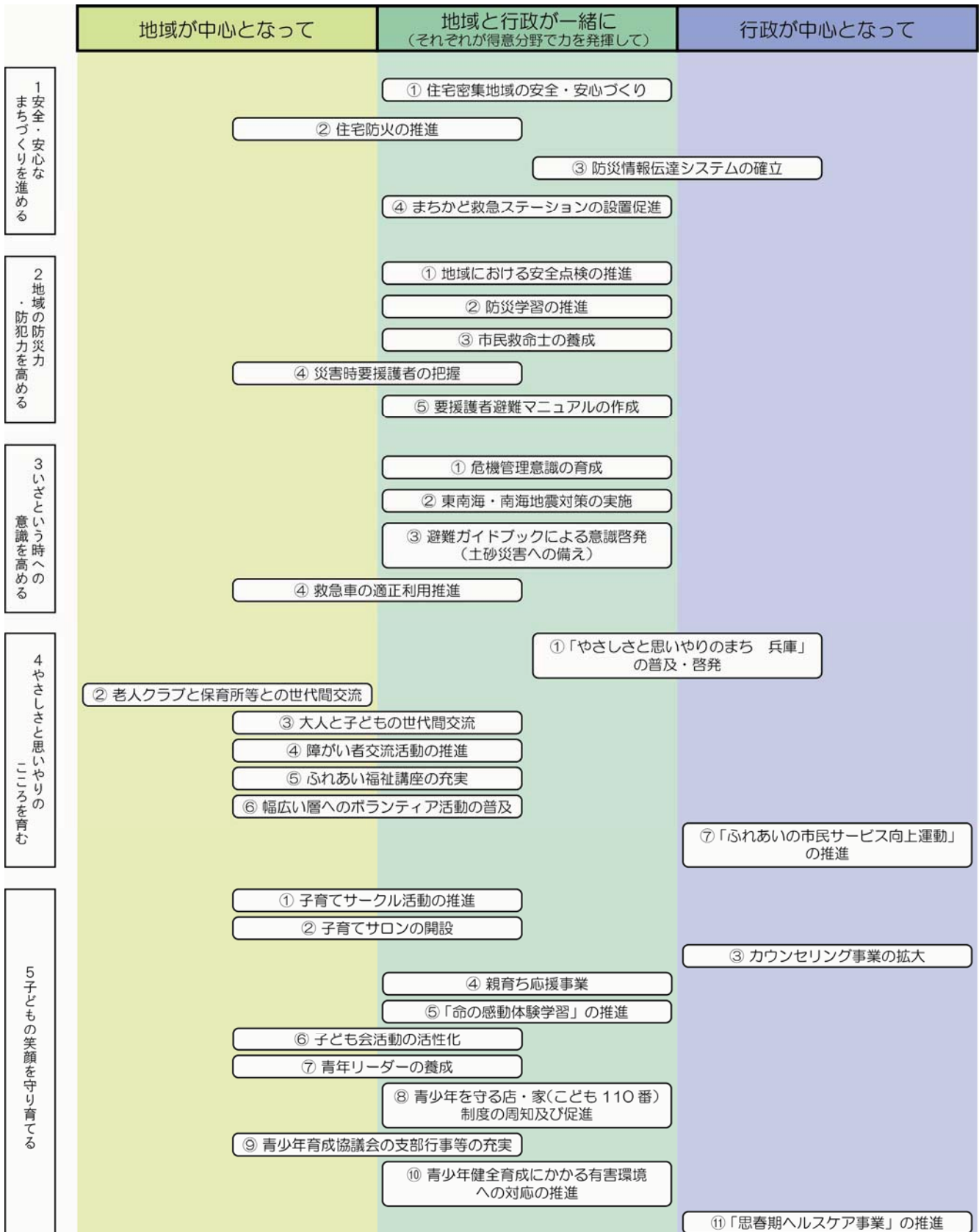
● チャレンジ指標（①「兵庫区民まちかどクリーン作戦」の推進）

☆「兵庫区民まちかどクリーン作戦」への参加団体数
 基準値 122団体 → 目標値 147団体

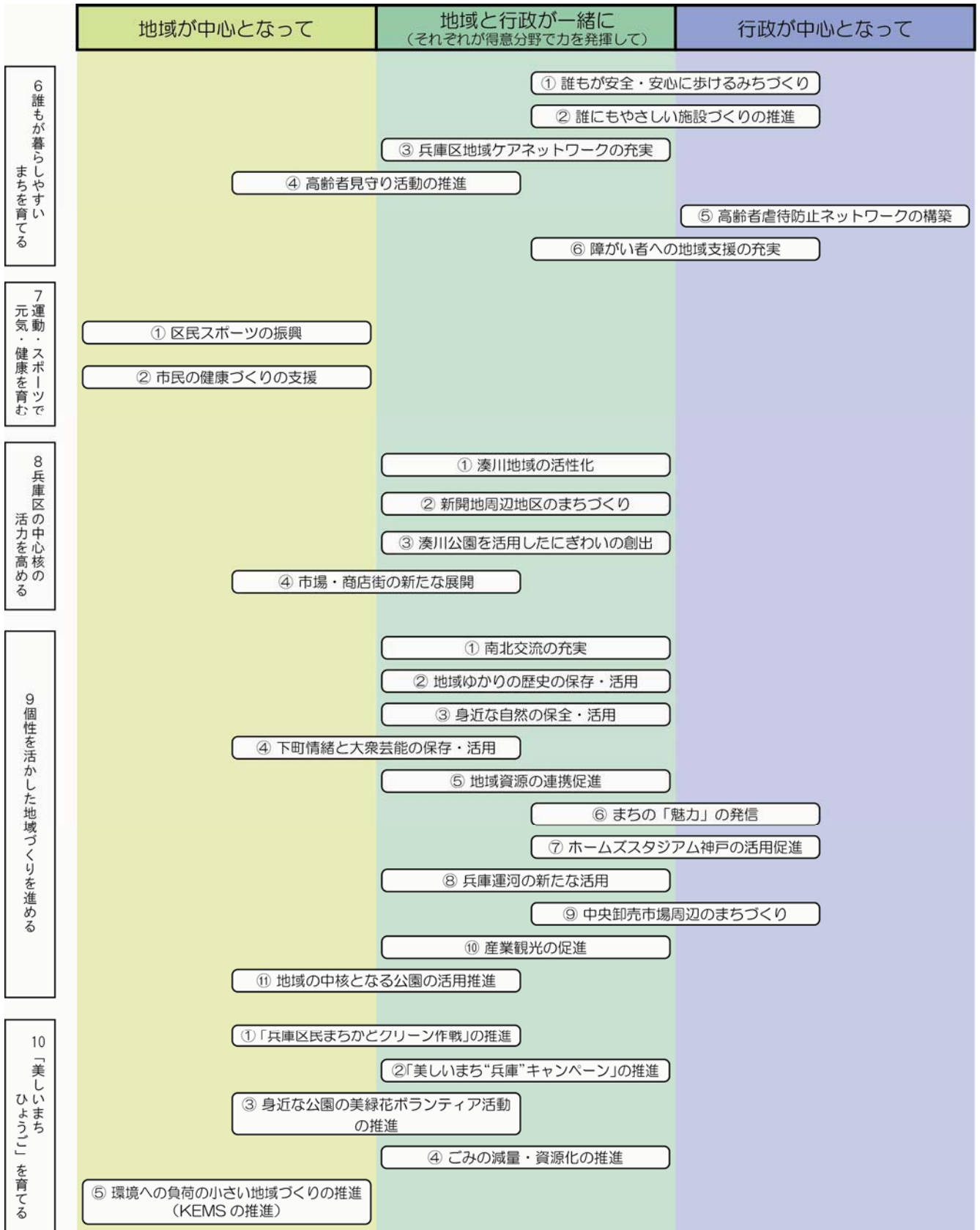
5

重点事業の進め方

・重点事業は、地域が中心となって取り組むこと、行政が中心となって取り組むこと、地域と行政が



一緒に取り組むことがあります。それぞれの重点事業の進め方について、下図をイメージします。



・兵庫区計画策定に際して、区民アンケートをはじめ、多くの区民の声を聞かせていただきました。

★アンケート・シンポジウム・ワークショップ・インタビューの主な意見

- 「阪神・淡路大震災」という大災害を経験した住民も行政も、当時のことを思い出して防災に取り組んでいかなければと思う。
- 兵庫区は下町情緒があり、人と人とのふれあい、一体感、地域のまとまり等々、他の地域にない良さがあります。この手作りの暖かさを大切に続ける街であって欲しいと願っています。
- 地域で「あらゆる年代が参加できる（したくなる）イベント」を行い、交流を図り、地域のつながり、結びつきを強くすることが良いまちづくりにつながると思う。
- 安心して子供が産めて、育てていける町になってほしいです。
- 犯罪がなく、子供から高齢者まで皆が楽しく暮らせる安全で住みやすい街になればいいなと思っています。
- 高齢者にとって、歩道の狭さ、夜道の暗さ、歩道の段差などが問題として挙げられます。これらの改善をすすめてほしいと思います。
- 障がい者、高齢者、ベビーカーを押す親たちにとって、鉄道駅のバリアフリー化を進めていただくことが必要です。
- 兵庫区で、いろいろな催しが出来るホールは公会堂しかありません。いろいろな団体・サークルが使いやすい区民ホールが必要です。
- 湊川商店街等は、昔より活気はなくなりましたが、新しいお店もできているし、美味しい店もたくさんあるのでもっと活気づくように行事をしたりして元気になってほしい。
- 歴史、文化が古くからあり、地域の人々とのつながりも深い、とても誇りの持てる街だと思う。商店街があり交通の便も良く住みやすい街なので、しっかりとしたまちづくりを続けていければと思う。
- 「山と海に囲まれた美しい街神戸」の昔からの港町がこの兵庫区だと思っているので、もっともっとウォータースタイルを活性化し、街の美化と、治安の良い安全な場所が全体に広がれば兵庫区は世界で一番素敵な街になると思う。
- 障がいを持つ私にとって、家の外の段差もつらいけど、実は家の中のちょっとした段差もバリアーなの。これからの家にはそんな配慮も欲しいよね。
- 兵庫区内には歴史・自然・文化と楽しめるものがたくさんあります。私は、ふらっと南へ出かけおいしいものを食べ、北に向かって史跡を巡って、疲れたと思ったらお風呂に入るなどして楽しんでいます。「もっと多くの人が区内をぶらりと楽しむようになればな」と思います。
- 由緒あるまち兵庫は、本当に歴史深いまちだと思います。でも歴史って難しいような気がして、そんな私にもうまく説明してくれる何かがあればなと思います。（例えば、マンガ、ホームページ、絵のいっぱいある看板なんてどうかしら？）
- こないだ、北の方で楽しいイベントがあったと聞きました。知らなかったので、行けなかった。残念！もし、そんな情報がうまく伝わるものがあつたらと思います。きっと私の住む南の方の楽しいことを北の方に住む方は知らないだろうな。教えてあげたい。楽しんでもらいたい。しかし、車を利用しない人にとっては、今のままでは南北交通の便が弱くて、移動がとても大変よ。
- 「兵庫区は高齢化率が高い」とマイナスイメージでいわれることがあるけど、私はそう思わない。元気に高齢者が活躍しているからこそ、地域がにぎやかになり、つながりが強くなっていっていると思うの。
- 高齢者のお知恵にはいつも助けられ、大変感謝しています。高齢者の方がたくさんいてくださる「兵庫区」は神戸の知恵袋です。これからも、困ったこと、悩むことがあるときにはどんどんお知恵を拝借したいです。

★紙面の都合で全てを掲載できませんが、この他にも貴重な声をいただきました。

その中から「こんなことが実現すればよい」「こんなことに取り組みたい」という声をご紹介します。

★「きて！みて！語ろう！兵庫の未来」と題してシンポジウムを行い、区民パネラーによるパネルディスカッションの中で、兵庫区計画の方向性を見出しました。



★地域で活躍する団体（青少年記者クラブ、東山子ども見守り隊、ふれあいのグラウンドゴルフ実行委員会、浜山地区ふれあいのまちづくり協議会、ひょうご観光ボランティア）や地域で活躍している区民のみなさんに、兵庫区の未来について、語っていただきました。

★区選出の市議員のみなさんから平成21年5月・11月、平成22年3月・8月の計4回、区のまちづくりについて意見をお聞きしました。



- | | | | |
|-------|--|--------|---|
| 1173年 | 平清盛が大輪田泊修築（経ヶ島建設） | 26年 | 道場村、八多村、大沢村を兵庫区に編入 |
| 1180年 | 福原京遷都（半年後京都へうつす） | 27年 | 山陽電鉄兵庫駅移転 |
| 1336年 | 湊川合戦、楠木正成戦死 | 28年 | 阪神上水道引水トンネル完成 |
| 1397年 | 第1回遣明船（兵庫が対明貿易の本拠地となる） | 30年 | 長尾村を兵庫区に編入 |
| 1580年 | 池田信輝が兵庫城を築く | 32年 | 市庁舎、中央区加納町へ移転 |
| 1596年 | 慶長の大震災 | 33年 | 淡河村を兵庫区に編入
中部下水処理場完成 |
| 1764年 | 朝鮮通信使、兵庫津来訪（岡方文書に記録される） | 41年 | 阪神高速道路神戸1号線 京橋～柳原間開通 |
| 1799年 | 高田屋嘉兵衛が択捉航路を開く（兵庫が北海道物産貿易の基地となる） | 42年 | 昭和42年大水害 |
| 1841年 | 吉田新田開発 | 43年 | 神戸高速鉄道開通
メトロ神戸オープン
神戸タワー解体 |
| 1864年 | 和田岬砲台竣工 | 44年 | 御崎公園球技場完成 |
| 1868年 | 神戸港開港（歴史上の兵庫港開港）
神戸事件発生、滝善三郎正信、兵庫・永福寺にて切腹 | 46年 | 第1回神戸まつり、兵庫はっぴいまつり開催 |
| 明治元年 | 切戸町の事務所を兵庫県庁とする | 47年 | 兵庫区総合庁舎（現庁舎）完成 |
| 4年 | 和田岬灯台竣工 | 48年 | 北区誕生（兵庫区より分区）
第1回区民大運動会開催 |
| 5年 | 区内で初めての小学校(明親小)開校 | 49年 | 第1回兵庫区区民会議開催 |
| 9年 | 新川運河完成 | 52年 | 会下山公園開園 |
| 21年 | 山陽鉄道会社、兵庫～明石間運転開始 | 53年 | 聚楽館閉館 |
| 22年 | 神戸市制実施 | 61年 | 区の花をパンジーに決定 |
| 24年 | 能福寺大佛落成開眼 | 62年 | 中央卸売市場新本場完成 |
| 29年 | 湊川決壊、福原方面被害甚大 | 平成元年 | 水の科学博物館オープン |
| 30年 | 和田岬に全国初の水族館開業 | 3年 | 能福寺「兵庫大佛」再建式典
新開地アートビレッジ構想発表
兵庫津の道の整備開始 |
| 32年 | 兵庫運河完成 | 5年 | 新川運河キャナルプロムナード供用開始
キャナルタウン兵庫起工 |
| 34年 | 湊川付替工事完成 | 6年 | 地下鉄海岸線の着工 |
| 38年 | 烏原貯水池完成
旧湊川の地ならし完成、新開地出現 | 7年 | 阪神・淡路大震災 |
| 43年 | 兵庫電気鉄道（現山陽鉄道）兵庫～須磨間開通 | 8年 | 神戸アートビレッジセンター完成 |
| 44年 | 湊川公園開園 | 9年 | キャナルタウン兵庫完成 |
| 大正2年 | 市街電車はじめて兵庫を開通
聚楽館完成 | 10・11年 | 新湊川水害
「歴史花回道構想」策定
新湊川改修事業完成 |
| 12年 | 清盛塚、琵琶塚移転 | 13年 | 地下鉄海岸線営業開始
神戸ウィングスタジアム完成 |
| 13年 | 神戸タワー開業 | 14年 | 区の基本方針「やさしさと思いやりのまち 兵庫」提唱
ワールドカップ開催 |
| 14年 | 発声映画（トーキー）初めて聚楽館で試写 | 15年 | 御崎公園再整備完成 |
| 昭和3年 | 神戸有馬電気鉄道(神戸湊川～有馬温泉)営業開始 | 16年 | 区のシンボルキャラクター「ハートン」誕生 |
| 6年 | 神戸市に区制施行 | 20年 | 新和田岬ポンプ場稼働 |
| 8年 | 湊西区を兵庫区と改称 | 21年 | 中央卸売市場本場リニューアル |
| 12年 | 和田岬防波堤完成 | 22年 | 湊川公園の再整備完成 |
| 13年 | 阪神大水害 | | |
| 20年 | 神戸大空襲
湊東・湊の2区を廃止し生田区と兵庫区に吸収、市庁舎、中央区橋通より松本通に移転 | | |
| 22年 | 山田村、有野村、有馬町を兵庫区に編入 | | |

- 平成21年 1月 「区民アンケート」の実施
「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●アンケート実施状況について
- 3月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●区民まちづくり会議での兵庫区計画検討について
●アンケート結果
「区民まちづくり会議 総会」の開催
●区民まちづくり会議での兵庫区計画検討について
●アンケート結果
- 6月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●“兵庫区の将来像”の検討
「地域代表者と区長との座談会」の開催
●「ひょうごの未来」について
- 7月 「地域代表者と区長との座談会」の開催
「シンポジウム」の開催
●「きて！みて！語ろう！ひょうごの未来」
～これからの神戸を考えるシンポジウム
- 9月 「地域代表者と区長との座談会」の開催
- 9月～10月 「区民ワークショップ」・「区民インタビュー」の実施
- 11月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●“兵庫区の将来像”の検討と確認
●“兵庫区計画”素案（案）の検討
- 平成22年 2月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●“兵庫区計画”素案（案）の検討
- 3月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●“兵庫区計画”素案（案）の検討
「区民まちづくり会議 総会」の開催
●“兵庫区計画”素案（案）の検討
- 8月 「区民まちづくり会議 総会」の開催
●“兵庫区計画”素案（案）の検討
- 12月 「区民まちづくり会議 総務会」の開催
●“兵庫区計画”原案の確認



兵庫区計画

「やさしさと思いやりのまち 兵庫」



ハートン
やさしさと思いやりのまち兵庫



項目	兵庫区 (対全市比)	全市
面積	14.56 km ² (2.6%)	552.80 km ²
人口総数	108,134 人 (7.0%)	1,538,570 人
世帯数	55,498 世帯 (8.1%)	682,978 世帯
高齢化率	27.08%	22.50%

※面積・人口総数・世帯数は毎月推計人口(H22.9.1現在)による
 ※高齢化率は住民基本台帳(含・外国人登録)町丁目別・5歳階級別人口(H22.10.31現在)による



ハートン
やさしさと思いやりのまち兵庫